

第2問
20点

次の商品売買に関する取引の【資料】にもとづいて、問1および問2に答えなさい。なお、当社は、売上収益を認識する基準として出荷基準を、払出単価の決定方法として先入先出法を、商品売買の記帳として販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用している。

【資料】 期中取引

x7年	取引の内容	
4月1日	前期繰越	X商品 仕入単価：@¥9,000 数量：200個 Y商品 仕入単価：@¥7,500 数量：200個
10日	仕入①	仕入先秋田株式会社から以下の商品を仕入れ、代金のうち¥720,000は現金で支払い、残額は掛けとした。 X商品 仕入単価：@¥9,600 数量：120個 Y商品 仕入単価：@¥8,100 数量：120個
11日	仕入返品	10日に仕入れた商品につき、Y商品60個を秋田株式会社に返品し代金は掛けから控除した。
15日	売上①	得意先青森株式会社以下の商品を売り渡し、代金は掛けとした。 X商品 販売単価：@¥18,000 数量：240個
16日	売上①の検収	15日に売り渡した商品の検収が無事完了した旨の連絡が青森株式会社よりあった。
18日	仕入②	仕入先秋田株式会社から以下の商品を仕入れ、代金についてはかねて受け取っていた山形株式会社振出しの約束手形を裏書譲渡した。 X商品 仕入単価：@¥9,600 数量：80個
20日	売掛金回収	15日に売り上げた商品の掛け代金は、1週間以内に支払えば、代金の0.2%を割り引く条件となっていたため、青森株式会社振出しの小切手で割引控除後の金額を受け取った。
22日	仕入③	仕入先岩手株式会社から以下の商品を仕入れ、代金のうち¥1,080,000は普通預金口座から支払い、残額を掛けとした。 X商品 仕入単価：@¥9,900 数量：200個 Y商品 仕入単価：@¥6,900 数量：120個
24日	売上②	得意先山形株式会社に以下の商品を売り渡し、代金は掛けとした。 X商品 販売単価：@¥19,500 数量：200個 Y商品 販売単価：@¥15,000 数量：300個
25日	売上②の検収	24日に売り渡した商品の検収が無事完了した旨の連絡が山形株式会社よりあった。
28日	売上割戻	山形株式会社にに対し割戻¥24,000を実施することが決定し、現金で同社の普通預金口座に振り込んだ。なお、割戻額はすべて当期の売上高に対するものである。
29日	売掛金回収	宮城株式会社に対する売掛金¥960,000について、同社の承諾を得て、電子記録債権の発生記録を行った。

30日	月次決算	<p>X商品およびY商品の当月末における実地棚卸数量と正味売却価額は以下のとおりであった。</p> <p>X商品：実地棚卸数量160個 正味売却価額@¥9,300</p> <p>Y商品：実地棚卸数量 60個 正味売却価額@¥6,600</p> <p>なお、当社は、毎月末に実地棚卸を行って棚卸減耗損および商品評価損を把握している。棚卸減耗損および商品評価損はいずれも売上原価に算入する。</p>
-----	------	---

上記の取引以外に商品売買に関連する取引は一切存在しない。また、月次決算を行うにあたり、便宜上、各勘定を英米式決算法にもとづき締め切っている。

- 問1 答案用紙の売掛金勘定および商品勘定を記入しなさい。
- 問2 ①当月の売上高および②当月の売上原価の金額を答えなさい。